

令和3年度第3回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

令和3年12月15日(水)

県庁3号館4階委員会室

【生涯学習の視点に立った社会教育の在り方について】

『宮崎県教育振興基本計画 施策2 地域と学校の連携・協働の推進』についての意見聴取

委員	<p>地域学校協働活動は広がってきていますが、いろいろな課題も見えてきています。地域学校協働活動の現状について御意見を伺いたと思います。</p>
委員	<p>〇〇町では、子ども会主催の駅伝大会が予定されていますが、スポーツ少年団や部活動の試合があるという理由で参加が少なく、連携がとれていない現状があります。</p>
委員	<p>〇〇市内は、コミュニティ・スクールが数年計画での導入でスタートしていますが、地域の人は、コミュニティ・スクールが何かが分からず、また、運営協議会のメンバー構成について、学校側にも戸惑いがあり、言葉だけが一人歩きしている印象がありますので、周知が必要と考えます。また、学校評議員、PTA役員がほとんどで、NPO法人等の民間の方が入る余地がないように感じています。運営協議会のメンバーの構成の仕方については、具体的なモデルがあるとよいように思います。このことについては、他の市町村はどうしているのかも伺えたらと思います。</p>
委員	<p>〇〇市は、10年前に各小学校区に地域づくり協議会が立ち上がっていて、体制が違うというだけで、地域学校協働活動は行われています。例えば、夏休みを利用した中学校校区でのゴミ拾いや記紀の道を歩こう会など、地域づくり協議会の旗振りで行っています。これからのPTA活動についてですが、PTA活動は、教職員にとってほぼ時間外活動になるため、変わってくるのが予想されますので、地域と学校との関わりがさらに必要になってくると思います。〇〇市の場合は、地域の神楽の伝承であったり、カヌー教室を行ったりなど、各地域で連携した活動が行われています。</p>
委員	<p>学校と地域との連携・協働においては、地域の力による学校への支援もありますが、学校の力による地域の支援もあるのではないかと考えます。〇〇地区では、祭りや運動会の運営、成人式の準備・片付け、社会福祉協議会による歩こう会、中学生がゲームを企画するわくわくラリーなど、学校の力による地域への支援、協働がよく行われていると思っています。</p>
委員	<p>とても参考になる事例と思うのですが、うまくいっている要因があれば教えていただきたいです。</p>
委員	<p>学校、自治公民館連合会、社会福祉協議会、民生委員など、地域のすべての団体が入って、まちづくり協議会ができてることが一番の要因かと感じています。それぞれに考えがあって、かみ合わないこともあるとは思いますが、各行事において、これをするために集まって何かをした記憶はありませんので、今までも同じように取り組んできたのだと思います。</p>
委員	<p>〇〇市は人口減少の影響もあって中学校が1つしかありませんが、コミュニティ・スクールが立ち上がっています。コミュニティ・スクールの構成メンバーについては、委員を委嘱すると予算が発生するため、不特定多数に構成メンバーを広げることは、多様な意見を聞く上でよいかもしれませんが、縛りが生じているのが現状かと思えます。県の絆推進委員会のメンバーをしています。今になってコミュニティ・スクール等の話が下りてきている印象で、〇〇委員の話にもありましたが、まちづくり協議会等、既に地域づくりの団体が、子どもたちへの地域と連携して活動を行っているわけですので、うまくドッキングしてやっていくしかないのではないかと考えています。また、総務省では地域づくり、文部科学省ではコミュニティ・スクールや地域学</p>

委員	<p>校協働活動、厚生労働省では支え合う社会づくりと、いろいろな取組が進められていますが、役を担っているのは特定の人という現状があります。こうしたことを考えると、無理な部分があると感じますので、よいところ取りをして、あいさつ運動のように、誰もができることを長くやっていくことが大切と考えています。手広くやると、長続きしないと考えています。</p> <p>本校では、本年度からコミュニティ・スクールがスタートしました。学校運営協議会が設置され、予算は1年間だけつきます。やっていることは、前々から行っていることを継続していく形となっています。学校には、人格の完成を目指し、勉強を一生懸命指導して生徒を伸ばしていくことが本来の教師の務めであると言われる先生や、地域と関わることが負担になると思っている先生も多くいらっしゃいます。しかし、これからの社会では、高校で学ぶことが絶対ではなく、いろいろな方と協働して解決策を見つけて対応していかなければならないことも多いと考えています。そのことから地域を見ると、経験のある方やネットワークをもっている方がたくさんいらっしゃって、地域での学びはとて大きく、地域との連携はなくてはならないと思っています。〇〇市には高校が1校しかありませんので、高校がふるさとなっていくことを踏まえ、高校がどう地域と関わっていくかが重要と考えています。そのため、自治体との連携はよく図られていると思います。学校運営協議会は、ひとづくり、まちづくり、評価の3つの委員会に分かれていて、まちづくり委員会を担当していますが、商工会議所、市役所の担当者等を集めて、地域が育てたい〇〇高校生はどんな生徒かについてワークショップを行ったところ、協働力、多角的な視野、企画力・創造力といったキーワードが出てきました。郷土愛も出てきたので、ポリシーに組み込んで取り組んでいます。また、〇〇高校は来年100周年を迎えますので、同窓会、教員、PTAが集まって100周年の事業を考えました。予算はないので、地域のイベントを100周年でいっぱいにしましょうという話になったところです。地域における高校生の役割は大きくて、これを機に、しっかりと地域と連携をして持続可能な学校をつくっていきたくて考えています。本校の校長先生が「前向きな苦勞をしましょう。」「働かない改革になっていないか。」とよく話をされますが、学校には、教科指導をやりたいと思っている先生もいらっしゃるの、負担感を軽減するためにも、スタート時点では、コーディネーターが必要と感じます。先生方も経験を積んで、こういったふうになればいいのかということが分かれば、負担感の解消にもつながりますし、その後の転勤先でも役立てられると思います。あとは予算の確保が難しいと感じています。やり方次第ですが、手を広げないとつながっていかないと感じています。</p>
委員	<p>運営協議会を立ち上げたけど、何をすればよいか分からない、地域学校協働活動が分からないといったケースはないでしょうか。また、メンバーでの悩みがあるようですが、会に参加するといつも同じ人と会うといった、委員の固定化等、課題はないでしょうか。</p>
委員	<p>まちづくりの中では、次世代育成が課題となっていますが、構成メンバーのことも踏まえて話をすると、どうしても評議会等の委員は充て職で入っているので、次世代が入る余地がほとんどないという現状があるように思います。中には、学校から経営者の方が声をかけてもらって委員になることで、学校のために自分のスキルを生かしている人いるようですが、ほとんどはそうならないように思います。若い人たちをどう引き込むかも大切ですが、入る余地がないことが課題と考えます。</p>
委員	<p>学校運営協議会のメンバーの参考として、〇〇町の場合は、会長が公民館長の会長、それから高齢者クラブの会長、婦人会の会長、商工会の青年部長、保育所代表、子育て支援センター、児童館の館長、子ども会会長、教育委員、JA青年部長、若者が3</p>

名、PTA会長2名、校長2名の19名に、今年からオブザーバーとして社会教育委員5名を加えて24名になっています。

さて、ここからは、学校と地域の連携・協働が浸透していない、周知ができていない、議論の場が設けられていない等、こうした課題をどう解決していくかについて御意見をいただきたいと思います。地域の子どもを地域で育てるためにはどうしたらよいかについてワークショップを行いました。いろいろな意見が出ましたが、〇〇町は自治公民館が命であるという意見が出されました。しかし、中学生があまり来ないという現状があります。そこで、公民館長22名と中学生のワークショップを行い、子どもから意見を取り入れようという計画が出されています。

委員

解決策を出してくださいと言われても難しいと思います。生涯学習の委員もしていますが、どこの委員会の場に行っても、どの立場になったとしても、何をすべきか、どうしていくかは、地域との連携をどうするか出てこないように感じています。前回の会議の振り返りで、学校運営なのか、地域づくりなのかゴールが明確ではないという意見がありましたが、最終的には、学校運営が主ではなく、地域づくりではないかと思います。地域づくりの中に、どう学校運営を絡めていくかが大切ではないかと考えます。地域と学校の連携・協働については、学校に地域の方を入れることはしていますが、学校から地域に出ることは、小学校、中学校はできない現状があるのではないかと思います。いろいろな問題を抱えていて簡単にはできないこともあるかもしれませんが、子どもが少なくなり、人口も減少する中、これまでのやり方を変えていく意識をもつことが必要だと思います。例えばですが、福祉の方でも、高齢者、障がい者、子育ての縦割りをなくし、どんな課題でも相談を受けて、それをいろいろな方が参加できて、それを受け入れる地域づくりをしていこうとしています。しかし、それをやる行政側の縦割りがくずれないところあるように思います。また、私は〇〇町に住み、〇〇市に勤めているわけですが、〇〇町のことがほとんど分かりません。こうした状況を考えたときに、大人が地域のことを知らないのに、子どもに地域を知れというのはどういうことなのかと感じます。昔は、子どもが行ける場所が地域にたくさんありましたが、今の子どもたちには、地域に居場所がなくなっているように思います。第3の居場所とも言われますが、現在、地域にどれだけ子どもの居場所があるのでしょうか。実際、子どもが行ける場所がどれだけあるかを考えると、地域づくりをやることには、地域で子どもを育てるとするのは難しいと思います。協議をすることも確かに大切ですが、子どもたちが行ける場所や地域の方が寄れる場所などをつくるといった実践も大事ではないかと思います。

委員

地域を知ることや学校に協力を求めてもなかなか得られないという話を伺って、職員にとってプラスαという感覚でとらえてしまうと負担に感じてしまうことはあると思います。総合的な学習の時間の学校の裁量は大きいので、今行っているカリキュラムに新たな単元として加えるという考え方ではなく、カリキュラム全体を見て、地域のニーズを踏まえながら、学校としてできることを考え、計画を見直していくことが必要ではないかと思います。子どもたちの学習に有効なことが理解でき、地域が求めていることを職員の負担にならないようにカリキュラムに組み込むことができれば、随分と違ってくるのではないかと感じました。実際、地域との交流については、コロナ禍でここ2年間できていませんでしたが、先日、地域の区長さんからお声かけいただいて、小中学生から高齢者まで参加し、グラウンドゴルフなどで交流をしました。参加できない子どもたちもいましたが、それでも、例年以上に地域の方も参加していましたので、地域の方から学校に支援してもらっただけでなく、学校から地域に出かけていくことも大事だと感じたところです。学校としては、地域の方の力を

委員	<p>借りることは大きな効果があり、顔見知りの関係であればなおさらであることは分かっていますし、地域にもできるだけ協力していきたいと思っています。地域との交流等、連携していくためには、やはりカリキュラムが鍵になると考えます。</p> <p>〇〇地区の地域の方が熱心で、民生委員の方々から花を植えましょうとか、〇〇市と〇〇地区の社会福祉協議会の方々の連携がとれていまして、福祉の勉強はどうかなど、声かけをしていただいています。こうした地域の方の声かけから、新しい取組として、6年生を対象とした学習支援を始めることにもなっています。学校としては、地域の方からお声かけをいただいた際には一緒にやりましょうという姿勢で進めるようにしています。ただ、説明資料にありますように、地域の方と一緒にやるだけではなく、育てたい子どもの姿を共有できるように協議をして取り組んでいかなければならないと考えたところです。学校では、働き方改革が言われていまして、管理職としては、職員の負担がないかを考えながら地域の方とも話をしています。さきほどありましたが、働かない改革ではないということを伝えながらも、職員の時間外労働にならないよう、バランスをとって取り組んでいかなければならないと考えています。</p>
委員	<p>地域の方からの声かけや交流等の話を伺いながら考えたことですが、インフォーマルな場の集まりから、フォーマルの場の連携にうまくつなげていく、結び付いていくことも大切ではないかと思いました。具体的には、普段の会話や交流の中から、「いいね、いいね」で生まれる連携をうまくまわしていくことが、連携を広げていく1つの鍵になると思います。研究室でまちづくり推進委員の方と話をする中で、その方が、他の方に話をしてくださったことで開催につながった事例があります。おそらく、〇〇委員の話された地区の行事がうまくいっている要因には、インフォーマルなコミュニケーションもあるのではないのでしょうか。インフォーマルのコミュニケーションによって顔が見える関係を築くことで、フォーマルな場での連携につながり、さらに広がっていくと考えます。そして、地域には、その要素があるように思いますので、こうしたことも意識してみてもいいかなと思います。</p>
委員	<p>以前、若い青年が旗振りをして、〇〇地区でフラワーフェスタが3か年事業として開催されたのですが、予算がなくなると続かなくなりました。どうすれば持続可能にできるのかなと考えたことがあります。施設が〇〇にあるため、〇〇地区にアプローチすることがよくありますが、まちづくり協議会の方と話をした際に、コロナ禍で防災のイベントがなかなかできないと伺ったので、施設の防災の集いへの参加を促したことがあります。ほとんどが高齢者でしたが10数名が参加され、生き生きとして子どもたちと接していました。要は、どれだけ楽しんで参加できているかということかと思っています。楽しさがなければ続かないと思います。青年団が衰退している現状がありますが、どれだけ青年は楽しんで地域づくりに貢献してくれているのでしょうか。大人の都合で子どもたちに提供しているような構図になっていないのでしょうか。先生方に負担があるとの話もありましたが、開かれた教育課程を利用する感覚がなければ負担感になると思います。地域との連携についても、地域を利用する意識で行わないと負担感になると思います。インセンティブが大切だと考えます。地域学校協働活動にしても、コミュニティ・スクールにしても、子どもや地域を輝かせるためのツールでしかありません。利用するか、活用するか。また、どう楽しくしていくかが重要だと考えます。今、組織として〇〇地区に少しずつ情報を得ながら参画していきたいと思いますが、個人として楽しくてやりたいという人がどれだけいるのかは気になっています。</p>
委員	<p>地域の子どもたちを育てるということで、地域の力を使っていかなければならない</p>

	<p>と思います。また、システムチックにするためにも、小中学校であれば、教育委員会が中心となって進めていかないといけないと思っています。〇〇市には〇〇学があり、小学校ではこういったことを学ぶというカリキュラムができあがっています。ただ、今見直しを行っていて、これまでは歴史とか産業、伝統等が組み込まれていたのですが、今回はそれだけではなく、SDGsとか、世界の動きとかを学ばせて、〇〇市から世界に羽ばたく生徒を育てていかないといけないという方向性で、名前も〇〇未来塾に変更し、検討が行われています。こうして1つのカリキュラムを作成し、システムチックにプログラム化されることで、子どもたちが地域を知ることや予算の確保、教職員の負担軽減につながると考えます。また、地域の力を利用することも計画的に進められるようになります。それから、魅力的なまちづくりと学校づくりは両輪と考えています。町に家を建てようという人が増えないと町がだめになり、そのためには学校が魅力的でないといけないし、魅力的な町でない、ここに残ろうという生徒が少なくなると言われたことがあります。こうしたことから、各地域でシステム的なプログラムを作れるとよいと思います。</p>
委員	<p>〇〇中学校の校長先生が面白い取組をしています。地域の方を講師として5、6人を招いて、10分程度ずつ子どもたちが講師から話を聞くという取組なのですが、これは、校長先生がコーディネーターとなって企業と子どもをつなぐ取組となっています。こういった取組であれば長続きしますし、地域と学校をつなぐ立派な取組になっていると思います。</p>
事務局	<p>地域学校協働活動の推進について説明をします。目的は、教育の質の向上で、その手段の1つが、地域学校協働活動となります。既存の組織の活用でも構いません。これまでは学校が抱え込んでいたのですが、地域と連携・協働する必要性が出てきて、学校運営協議会は学校の中の組織として、地域学校協働本部は地域の中の組織として、目標や目的を共有し、内容を精選して取り組もうという体制になっています。</p> <p>学校は、地域とともにある学校づくりということで、学校運営協議会に地域の方に参画していただき、目的・目標の共有を図っていくこととなります。そこに、地域の橋渡しの役目を担う地域学校協働活動推進員を入れていただきたいということで、市町村教育委員会をお願いしているところです。ここで、目的や目標、目指す子どもはどうあるべきかなどについて協議をする場、熟議と言っていますが、運営協議会で熟議をした内容を、地域側で地域学校協働活動に結び付けていく、それが、輝く持続可能な地域づくりにつながっていくと考えています。そのためにも、地域学校協働活動を推進していくためには緩やかなネットワークが必要となります。それが本部ということになりますが、地域づくり協議会やまちづくり協議会など、そういった組織があることは、地域学校協働活動がしやすい地盤がすでにできているということ、委員の皆さんの協議を伺って改めて思ったところです。このように、協議したことが実行されるように、地域の方と手をつないで取り組んでいきたいと思いますという体制の整備を進めているところです。また、コーディネーターの設置が大変重要であり、市町村にお願いしなければならないことですが、必要な予算を確保していただきたいと思います。国も県も補助をしていますので、ぜひお願いしたいと思っています。</p>
委員	<p>それでは、地域と学校との連携・協働について、行政にしてもらいたいこと等ありましたら御意見をお願いいたします。</p>
委員	<p>コーディネーターの必要性は以前から言われていますが、誰がどういうふうにするかまでいかに感じています。私個人としては、各市町村の定年退職した方は、いろいろな団体を把握していますのでふさわしいと考えています。県全体としての具体的な指針があるとコーディネーターをお願いする上でも伝わりやすいのではない</p>

委員	<p>かと思えます。</p> <p>地域学校協働本部と同じ役割を果たしている、まちづくり協議会や地域づくり協議会がある地域については設置する必要があるのか、それとも必要がないのかを伺いたいです。</p>
事務局	<p>本部という堅苦しいイメージをもたれがちですが、名称についてはどういった名称でも構いません。〇〇委員が話をされたような組織であれば本部と捉えています。そこに、コーディネーター機能があり、多様な方が参画し、多様な活動が行われていて、持続可能な活動がなされていれば、本部と捉えています。例えば、〇〇市の〇〇地区のまちづくり協議会の〇〇氏はコーディネーター的な役割をされていますが、〇〇市からコーディネーターとして任命されているわけではありません。そういった方が各地域にたくさんいらっしゃいますので、把握していく必要を感じているところです。</p>
委員	<p>まちづくり協議会、地域づくり協議会等は予算をもっていますし、学校とのパイプ役を担っている方や学校とつながりをもつ部会等もありますので、こういった組織とうまく連携していくことができれば、いろいろな事業等を楽しく展開していけるのではないかと考えたところです。</p>
委員	<p>〇〇町の財団の話になりますが、学校が元気になるためには、町に元気がないと人がそこに住まないと思います。その財団は、町が稼ぐ仕組みと町に子どもを残す仕組みを考えた取組を行っています。その財団の〇〇氏に来校していただき、探求の授業を行ったことがあります。東京の大学、世界的な企業、そして石川県の〇〇高校をリモートでつないで会議をすることができました。財団の〇〇氏は文部科学省にもいらっしゃったので、広いネットワークをおもちです。例えばですが、〇〇市しか知らないコーディネーターだったら、〇〇市のみならず、〇〇市のようなネットワークをおもちの方がいらしゃると、子どもたちの視野を大きく広げることができると思います。〇〇町にいながら、たくさんの方が学べることを生徒たちにアピールすることができるという、こうした取組が大事なのではと感じます。おそらく県内には、こういった方がいると思うので、情報をしっかりと把握して、派遣していけるようになるとよいと思います。</p>
委員	<p>地域に人材はたくさんいるけど、なかなか引き受けてもらえない等、コーディネーターを探すのは大変という話を聞いたことがあります。候補者を対象に、研修を修了した人はコーディネーターとして認定するようなコーディネーター育成研修会といった仕組みはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>地域学校協働活動推進員等研修会は、教育事務所単位で年3回開催していますが、この研修会は、コーディネーターになった方を対象とした研修になっています。コーディネーターは、これをしたらコーディネーターになれるといった登録制ではありませんので、お願いしたり、委嘱したりするのは市町村になっています。ただ、コーディネーターに興味のある方には、この研修会や県民総ぐるみ研修会等に御参加いただきたいと思っています。</p>
委員	<p>指導者をつくるための通信教育の募集記事を見たことがありますが、こうした教育や研修を受ける人に対して補助することも必要と考えます。それから、〇〇市では、地域学校協働本部は設置されていますが、実際に動いているは一人です。絆推進委員会等で〇〇市の状況を伺いますが、〇〇市と比べて充実しているように感じ、市町村によって取組の格差があるように思います。県内の市町村間の格差をなくせるような指導や支援をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>今、地域と学校との連携・協働が推進され、学校では、地域のヒト・モノ・コトを知り、地域とつながる機会が多くなっていると思いますが、卒業後はどうでしょうか。</p>

	<p>このあとの協議では、学校を卒業してからの地域とのつながりに目を向けて、学校外における子どもや若者と地域のつながりの現状や課題、取組等について、また、人生100年時代やSociety5.0など、社会変化に対応した学習の在り方等について御意見をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>〇〇町では、地元就職している若者が中心になって成人式の実行委員会を立ち上げて準備を進めているところですが、正直なところ、〇〇町には高校もありませんし、地元に残る子どもが少ないため、中学校卒業後は、若者と地域とのつながりは希薄になっているのが現状です。</p>
委員	<p>〇〇市の場合、高校卒業後は、〇〇学校に行き就職するといった若者もそれなりの数があります。成人式については、どこもフォーマットができていますので、あとは20歳になる若者が実行委員会として動き、準備を進めるといった状況です。昨年度は、成人式ができませんでしたが、Webでの同窓会を開催するなどしていますので、つながりがないわけではない印象です。</p>
委員	<p>高校卒業後は、ほとんどが地元を離れます。成人式については、昨年度は中止になりましたが、今年度は実施予定になっています。成人式には、地元に残っていない若者も戻ってくるので、交流を通して地域の発信する場として活用するのにとてもよい催しになっていると考えています。また、若者と地域とのつながりと言えば、役場の職員が中心になって青年団を立ち上げて、ほそぼそとですが活動している状況です。今度の〇〇地区の社会教育委員の研修会で、青年団の取組について講話をする予定になっているようです。</p>
委員	<p>〇〇市の場合も実行委員会をつくって実施しています。まちづくり協議会の役員が中心になって、新成人の代表者と、学校区ごとで行っている状況です。卒業後のつながりについては、成人式のみになっていると思います。地区には高校、専門学校はありますが、中学校を卒業してしまうと、通学のみで、公民館とのつながりもなくなるという状況です。</p>
委員	<p>〇〇市には年間100億以上稼ぐ企業ベスト10の中に6社ほど入っているようです。こういった町であれば、大学に行ったとしても帰ってきて、就職できる企業が地元にあるように思います。〇〇高校では、8割の生徒が進学し、約4割の大学が県外になっていますが、帰ってきたいと思っても、地元就職する場所がないといった現状があるように思います。だからこそ、まちづくりと学校づくりは両輪なのかと思っています。100周年で集めた募金の中から、奨学金を設け、将来を実現するために頑張っている生徒を応援し、奨学金をもらった生徒には、学校で生徒のために夢を語ってもらおうといったことを実現したいと考えています。また、地域にはいろいろな祭りがあると思いますが、祭りの時期になったら、祭りの中での自分の役割のようなものを考えて帰ってくるような子どもを育てたいと思っています。</p>
委員	<p>地域とのつながりには、個でのつながりと、青年団などの組織や団体、職場、イベント等を介したつながりがあるかと思っています。組織や団体、職場に入ることによって、地域とつながりやすくなるということがあると思うのですが、県内のその辺りはどうなっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>現状は、青年団がない市町村もありますが、宮崎県青年団が各市町村にあり、宮崎県青年団協議会を組織しています。宮崎県青年団協議会に入っている人数は、令和2年度の数ですが、200名余りです。最近では、青年団協議会に入っていない市町村も出てきています。ただ、青年団協議会に入っていない市町村に青年団がないかというところではなく、各市町村内で地域の清掃活動やイベント等を実施していることもあります。また、中山間地域になると消防団に入らないといけない場合もあり、休みが</p>

委員	<p>なくなるという現状がある一方、そうやって地域を盛り上げたいという人もいるというのが現状です。その他、今はコロナの影響を受けていますが、スポーツ大会や交流等も行われています。</p> <p>若者の中に、団体に所属することをあまり望まない状況もあるように思います。付きやすく離れやすい、地域とつながる機会を考えると、祭りのようなイベントがよいと思います。祭りを大事にすることは、地域を活性化するだけでなく、若者がつながるためにも大事だと思います。団体を介して若者が地域とつながることが難しくなっている現状を考えると、ある程度、地域とのつながりを保ちながら、必要に応じて柔軟に対応できるような形も必要ではないかと考えます。</p>
事務局	<p>県としましては、これまでも若者が地域とつながるようないろいろな取組を行ってきたところですが、今の青年団等、若者と地域とのつながりの現状から考えますと、新たな取組が必要になってきていると感じます。ぜひ、アイデア等、御意見をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>〇〇委員、〇〇委員から祭りの話が出されましたが、〇〇町では、〇〇市の取組を参考に、祭りの企画段階から中学生に参加してもらうような取組を考えているところです。そうすることで、学校卒業して地元を離れても、祭りの時期になると帰ってくるような子どもを育てていきたいと思っています。</p>
委員	<p>地域学校協働活動を通して地域とのつながりをつくるために、〇〇町では、子どもたちから意見を聞くといった取組をしようという話があったかと思います。先日、街中でボランティアをしようという取組で、中学生を募集した際、定員20名に対して60名以上の応募があり、20名に絞って実施したところですが、その際にアンケートを採りました。その中で、「地域の人と関わりたい」「交流してみたい」「話してみたい」といった意見が多く見られました。地域と関わりながら何かをしてみたいという子どもたちがいることを改めて感じたところです。また、応募したけど参加できなかった中学生に、地域の活動を紹介するチラシを送ったところ、実施団体から参加がありましたという連絡があるので、情報が子どもたちに届けば、反応する子どもたちがいるし、実際、子どもたち自身もやりたいという気持ちがあるように思います。当事者意識になると思いますが、自分がやりたいことが地域の人たちとやれたという気持ち、地域に戻りたいということにもつながってくるのではないかと考えます。また、さきほどから祭りがあるから帰りたいという話題になっていますが、私自身が、祭りがある時期に地元に戻る一人です。無形伝統文化財に指定されている踊りですが、高齢化による担い手不足ということが分かっていて、ちょっとした責任感と、地域の人とやったから楽しかったという記憶が、帰りたいという気持ちになる要因になっているように感じます。やりたいと思ったことが地域の人とやれたという思い出が地元に戻るきっかけになることを考えると、子どもたちにどういったことがやりたいかを聴く場を設けるのは1つの方法と思います。</p>
委員	<p>〇〇市の会議に出席した際に、35歳以下の転出者と転入者の数が逆転したという話を伺いました。その分析はこれからということでしたが、若者と地域のつながりについても、現状と課題を把握するために、どうして戻ってきたか等の追跡調査を試みるのもよいのではないかと考えました。若者の考えを知ることで、違う現状や課題が見えてくるのではないのでしょうか。祭りに関しては、昔から継承されている祭りとか神楽がある地域は、子どもの頃から参加するのが当たり前という意識になっていて、祭りがあるから帰ってくるということがよくあるように思います。また、保護者の意識が子どもに与える影響は大きいと考えます。子どもが接する一番身近な大人は保護者なので、地域とのつながりが面倒くさいと感じている家庭で育つか、少しでも</p>

事務局	<p>地域のためにという家庭で育つか等、保護者が地域とのつながりをどう考えているかで違ってくると思います。</p> <p>〇〇委員からの街中で実施したごみ拾いについて、地域のイベントにいろいろな人を取り込んでいく取組としてとてもよいと思ったところですが、そのイベントに企業が関わっているのでしょうか。</p>
委員	<p>今回のイベントには企業は関わっていませんが、企画には〇〇高校の生徒が関わっています。宮崎の街を盛り上げるためにも、街はきれいな方がよいという思いから企画されたもので、高校生商店街のイベントに合わせて、商店街の協力をいただいて実施したものになります。街中一斉ボランティア等には、多くの中学生が参加してくれています。ただ、高校受験に向けてと考えている生徒もいるようで、動機は様々ですが、地域と関わるきっかけになればと考えています。</p>
委員	<p>高校でも、ボランティアには大学進学を控えた生徒たちの参加は多い状況ですが、それでもよいと思っています。また、小学校、中学校、高校で、いろいろな経験をさせるという意味では、系統的に経験をさせていくことが大事だと思います。小・中・高校生は、生活、総合的な学習の時間、探求の時間を通して、地域のことを学び、高校では、地域の課題解決に向けて行動を起こそうといったところまでいきます。〇〇高校では、リーダー会を組織して、子どもたちが主体的に活動し、様々な経験ができるようなシステムを作ろうとしているところです。理想としてですが、自ら町を豊かにしていこうとする人材を育てていきたいと考えています。</p>
委員	<p>〇〇高校で取り組まれている地域を知るといった取組は、他の高校でも行われているのでしょうか。</p>
委員	<p>令和4年から高校は新しい学習指導要領がスタートします。その中で、総合的な探求の時間が全ての学校に入り、いろいろな知識を使って課題を解決する力を育てていくことになっています。地域の課題に限らず、世界の課題等、自分の興味をもった分野の課題に対して問題提起をして解決していこうという取組ですが、そこに地域が入ってくると、実際に地域課題を解決することにつながることで、そうした経験は生徒にとってとても大事だと考えているところです。</p>
委員	<p>〇〇市のことですが、〇〇高校が地域と一緒にいろいろな取組をしています。道の駅が新しくできたのですが、パンフレットやスイーツを作るなど、道の駅を中心とした活動が展開されています。祭りもですが、こうした館の運営等に関わることも郷土愛を育てることにつながると思います。</p>
委員	<p>子どもと若者と地域がつながる場として何か考えられることはないでしょうか。例えばですが、子ども食堂というのは、子どものための食堂と思っていましたが、そうではなく、子どもだけでも行ける食堂ということで、高校生が小学生の面倒を見るなど、多世代の交流をねらいとしていることを知りました。こうした世代を超えてつながる場があるとよいと感じたところです。</p>
委員	<p>子ども食堂にはボランティアに来る人が多くいます。その中には、ボランティア証明がほしいという学生もいます。ただ、子どもたちに関わることを楽しく感じるようで、また来たいと思う学生も多くいます。また、子ども食堂を始めて5年になりますが、小学生だった子が高校生になっていて、子どもたちに料理を教えたり、今年はクラウドファンディングを使って映画上映を行ったりなど、高校生が企画や運営に携わってくれています。子ども食堂は、多世代の交流もあってつながりができ、第3の居場所になるなど、地域食堂とも言われていますが、地域で子どもを育てていくにはよい場と感じています。貧困問題や、困窮に関わることとしては、主任児童員と連携して、見守りも兼ねて食材を届ける子ども宅食というアウトリーチ活動もしています。</p>

委員	<p>まちづくりも行いながら、支援が必要なところともつながることができるので、活動の拠点があることは大切だと思います。また、食支援が企業にも広がっていて、子どもだけでなく、高齢者、障がい者を対象にして食材の提供が行われています。特に、SDGs がきっかけになっているように思います。〇〇市では、SDGs をキーワードに、地域活動に入って授業を展開している先生もいらっしゃいます。このようにSDGs をキーワードに、子ども食堂だけでなく、いろいろな場所を拠点にして地域活動の泥臭いものから新しいものまで広がりが見られているように思います。</p> <p>〇〇高校では、探求の時間を使って1年生で必ずSDGs の学習をするようにプログラムされています。その中で、食品ロスに取り組んだグループがありました。また、高校では、自己負担にはなりますが、一人一台端末の環境が来年度に整う予定になっていますので、さらに主体的な取組が見られるようになると思います。</p>
委員	<p>SDGs に関する取組を見ていると、子どもたちの可能性をすごく感じます。子どもたちの感度のよさに、地域の材料を準備すれば、子どもたちは自分たちで積極的に地域に入っていこうとするので、そのきっかけづくりをすることが大切になると思います。</p>
委員	<p>残念ながら、協議の時間はここまでとなります。たくさんの御意見ありがとうございました。今回いただいた意見は、次回以降の会議に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。</p>